

潮騒のみち

舞子―塩屋

▷8

牛舎のにおい。稲作の季節まで骨休めをする田。菜の花やレンゲが揺れる。「こも神戸やで」。出会った古老が笑った。

神戸市西区神出町小東野。こもほど、かの人物をよく知る町はないだろう。

呉錦堂。

大正時代。原野だったこの土地を開墾し、今日の礎

呉錦堂

をつくった。住民

らは町の中心部に顕彰碑を建て、かんがい用水池を呉錦堂池と名付け、たたえた。池は今も小東野の田を潤す。

□

呉は移情閣の主人。六角堂と言った方がなじみがあるかもしれない。舞子の浜辺に建っていた異人館だ。一見すると六角形なのでそう呼ばれた。大正初めなのは確かだが、建設年次ははっきりしない。

今、その姿はない。明石海峡大橋の建設に伴い、いったん解体された。本当は正八角柱で三層構

造。クリーム色の壁が海や松で映えた。洋館が多い当てもずいぶん目を引いたことだろう。どんな人物が住んだのか。呉の足跡からうかがった。

□

中国から三十一歳で来日。セメント、マッチの製造、貿易などを手掛けた経済人であり、中国国民党の

呉の研究家で、立命館大に留学中の徐大衛さん(四四)に聞いた。「肉はほとんど食べず、漬物ばかり食べていたですよ」

かなりの儉約家だったそうだが、必要があればどっどつぎ込んだ。財産の七〇％以上を慈善事業につぎ込んだとも言われる。

徐さんは呉のひ孫。九一年に来日し、研究を続けている。

街の礎築き魂今も

さて、移情閣

年、孫文が呉を訪ねた時の写真がある。孫文の石隣に

孫文の有力な支持者でもあった。一九一三(大正二)

なせ、八角形なのか。中国近代史に詳しい中村哲夫教授(神戸学院大学)が呉の子孫から聞いた話だ。建物は八方位を示す。

慈善事業家としての顔もあつた。小東野の開墾がそ

明石海峡は難所。海難事故を防ぐため、船が正確な位置をつかめるよう、移情閣のどの角が見えるかで確認

また、中華同文学校設立時に寄付。郷里の浙江省に養蚕技術の学校を設立した。

貿易商人の祈りが伝わってくるようだ。

船の安全を祈る移情閣

う気持ちをこの地に移す、つまり移情」
呉は還暦を記念して建設した。自らの人生を刻んだのかもしれない。
二〇世紀最後の年、呉錦堂の楼閣が再び建つ。大橋完成後、つち音が次第に大きくなってきた。

(おわり)

記事・中部 剛

長沼 隆之

写真・田中 靖弘

では、名の由来は。「舞子の風景が故郷の浙江省に似ており、故郷を思



松と中国。歴史が重なり、溶け合う―神戸市垂水区東舞子町、県立舞子公園

